

花 き

実 況

1 キク

奥越では11月25日ではほぼ終了し、露地小ギクは「うんかい」、「水車」(白)、「かな」(赤)が11月上旬中旬に収穫された。JAテラル越前キク部会の親株ハウス定植は10月30日に行われた。

坂井の寒ギク「雪まつり」は11月中下旬開花、草丈88cmで、あわら市富津の圃場では黒さび病が中発生である。

福井の寒ギク「松林」は11月20日調査では草丈105cm、生育は順調で収穫が前進した。次年度の中輪ギク、小ギクともに親株管理中である(昨年11月14日調査)。ハウスの中でアブラムシが微発である。

南越の寒ギク「フォード」は11月16日調査で80cmとなり、生育は順調である。次年度の中輪ギク、小ギクともに、親株管理中である。

丹生の10月ギク「花世界」は11月16日調査で80cm(85cm)で11月上旬まで出荷された。開花は温暖なため早く開花した(昨年11月12日調査)。次年度の中輪ギク、小ギクともに、親株管理中である。アザミウマ類は少発、白さび病が微発である。

若狭の寒ギクは11月20日調査(昨年11月13日調査)で、「金ロマン」が草丈105.2cm、蕾径2.0mm(昨年草丈118cm、蕾径2.3mm)、「新年の美」が草丈113.6cm、蕾径5.9mm(昨年草丈123.6cm、4未出蕾)である。

2 スイセン

越前町の促成栽培は11月17日調査では10月8日～11月中旬まで出荷が続いた。

露地栽培は11月5日調査で、花茎長9.7cm(昨年11月6日調査で13cm)。11月17日調査で花茎長25.8(22.8)cmと生育は昨年より進んでいる。出荷は12月に向けて増加する見込みである。日陰の水がさしてくる露地圃場の開花は早い傾向である。

あわら市では11月16日調査で葉長20cmでヤリは上がって少なく、3枚葉が多い。昨年度より葉先枯病が少ない。

3 ユリ

坂井の11月16日調査では、9月29日に定植された「クリスタルブランカ」が109cm、158枚(昨年度11月15日調査で108cm、135枚)、年内から年明けに開花予定である。9月27日定植の「マローン」が83cm、98枚、12月上旬開花(昨年95cm、102枚)、9月19日に定植された「ランティエニ」が86cm、148枚、5～6輪、12月上旬開花見込みである。「リッチモンド」、「ブラックアウト」は開花がほぼ終了した。

あわらの福井ユリ「リリブライトレッド」は、11月下旬から冷蔵球ものが開花し、草丈85～

100cm、花数は2～4輪でやや細い。富津の「リリブライトレッド」は細く70～80cm、2輪花が多い。11月中旬から出荷始めとなっている。

永平寺、福井市の福井ユリは、定植が11月上旬から順次行われた。

鯖江の普通栽培はハウス据え置きで行われた。球根増殖のために鱗片繁殖を実施している。

4 トルコギキョウ

あわら市の8月上旬定植のトルコギキョウは12月上旬でほぼ収穫が終了し、翌春収穫の二度きり作型を行う予定である。一部で電照加温栽培を行っている。

南越では、11月16日調査で4月下旬播種、6月中旬苗冷蔵、7月下旬定植の「ボヤージュグリーン」が75cm、12対、「ロベラクリアピンク」78cm、13対、「サルサマリン」「バルカンマリン」68cmとなり収穫後半である。9月中旬播きの「ロジーナブルー」「バルカンマリン」等で本葉7対である。

5 ストック

あわら市は、収穫が10月下旬から開始された。11月5日調査では、8月7日に播種されたホワイトアイアンが草丈76cm(昨年度11月5日、74cm)で収穫中である。本年度は全体的に開花が早くなり、ビビフルフロアブルの効果が小さい。8月21日直播で草丈77cm、葉数47枚、開花11月下旬と後半物の方が草丈の長い花がみられる。本年度はコナガの発生が多く、11月下旬でもハウス内に成虫がみられる。一部に半身いちょう病がみられた。また長雨による根傷みがハウス内でも発生した(11月16日調査)。

福井では11月20日調査で、9月15日播種の10月5日定植カルテットシリーズの草丈が29(20)cm程度である。昨年より生育進んでいる(昨年11月11日調査)。

南越の11月16日調査のカルテットシリーズは8月下旬から9月上旬まで、連続的に播種されている。8月25日播種作型で草丈54cm(50cm)、9月2日播種作型は50cm(32cm)、9月7日播種作型が37cm(30cm)である(昨年11月12日調査)。昨年より1週間程度進んでいる。南越地区ではストックの面積が2a程増加した。

若狭では11月20日調査(昨年11月14日調査)で、9月中旬に定植したカルテットシリーズが草丈55～60cm(昨年草丈53～63cm)で開花始めとなっている。11月17日定植の3月出荷作型は、葉数2枚(昨年4枚)となっている。

6 ハボタン

福井の切り花用ハボタンは、11月20日調査で福井市東郷の8月初旬に定植された「晴姿」が95cm(105cm)、「初紅」が75cm(80cm)、永平寺の7月下旬に定植された「晴姿」が90cm(80cm)、「初紅」が90cm(80cm)で、11月27日に華道協会との交流会を開催する予定である。目揃い会が11月20日に行われ、出荷は11月27日から行われる予定である。一部の圃場でヨトウムシが微発生であった。

7 その他

あわら市で金魚草が出荷盛期、デルフィニュームが11月下旬から出荷が始まっている。

対策

1 ハウスの雪害対策

- (1) 屋根の被覆材の取り付け部が雪止めとなり積雪が生じるので、金具や止め付け方法に注意し、雪の滑落をしやすい工夫をする。
- (2) 軒部に被覆材を突き出すと、屋根の融雪水がその部分で夜間凍結し、屋根雪の滑落を妨げるので注意する。
- (3) 東西に長い施設では、南側の屋根雪が日照により先に落下しやすく、一時的に北側のみに積雪状態となるので、北側に十分に支柱等を立てて補強する。
- (4) モウソウ竹やタルキを3~4m おきに立て、ハウスを補強する。建築用のジャッキ付サポーターは長さの調節ができ便利である。取り付け法は天井の直管に沿ってタルキなどの支柱を立てる。土へのめり込みを防ぐため床面が軟弱な場合は厚板やブロック（レンガ）等を置き、この上に支柱を立てる。ワイヤー等でハウスの肩を引き付ける（積雪荷重によって肩部が広がると倒壊しやすくなるため）。筋交いを補強する。
- (5) 融雪パイプはハウスの肩部に敷設する。散水ノズルは片側ノズルを、パイプ径や水量に応じて50cm~1m 間隔に取り付ける。
- (6) 融雪パイプの割れ、漏水、散水ノズルのつまり等を降雪前に点検する。
- (7) ハウスサイドの地表面に幅1m 程度の古ビニールを敷き、融雪水のハウス内への流入防止と融雪の促進をはかる。
- (8) 施設の周囲は除雪の邪魔にならないように、後かたづけ、整理整頓をしておく。



2 8、9月咲きギクの親株管理

- (1) 親株の病虫害防除の徹底を図るため、1週間に1回の予防剤散布を励行する。苗床での防除は、面積も小さいので、薬量を少なく、回数を多くし、効率的に防除する。ただし、草丈が低い分、葉裏にかかりにくいので、丁寧に葉裏にかける。さび病等の病斑が隠れている場合があるのでよく確認する(写真)。特に本年は黒さび病が多いため、兼商ステンレス等で防除する。
- (2) 越冬親株が過湿になると、株枯れや病害が多くなるので、



黒さび病と白さび病
親株の葉裏にみられる

灌排水に留意し、過湿にならないよう管理する。

- (3) 親株の切除は12月中までには済ませ、冬至芽の摘心は1月下旬に地際部より2~3cm(葉3、4枚)を残して行う。折り取った茎葉はハウスの外に出す。特に防除前はハウス内の雑草を除去し、ダニ、アザミウマ等の隠れ場所をなくすようにする。
- (4) 12月の親株切除後ただちに白さび病や各種病害虫に対する防除を実施する。特にダニやアザミウマ類はいったん生長点部分に入ると防除しにくいので、ていねいな散布を実施する。近年、紋々病(キクモンサビダニ)がみられるので注意する。

3 スイセンの管理

(1) 灌排水管理 (ハウス温度管理)

圃場に停滞水がある場合は排水対策を実施する。ハウス栽培で土壌水分が少ない場合は、灌水を行い、適切な水管理を行う。ハウスにあるスイセンでは日中が15℃程度になるように管理する。

(2) 収穫

花一輪2分咲きで適期収穫する。収穫後はすぐに水揚げを行い、しおれを防止する。

(3) 養成球根の施肥

養成球根は12月上中旬にそさい5号を20 kg/10 a (20 g/m²)施用する。

その後、同じく雪解け後2月中にそさい5号を20 kg/10 a (20 g/m²)施用する。

4 トルコギキョウの育苗管理 (3~4月定植もの)

- (1) 近年は稚苗定植から大苗定植に移りつつあるため、育苗期間を長めに設定し、苗を寒がらせないように管理する。その場合、セルトレイは200~288穴で深めのものを使用する。

子葉展開後は灌水代わりに1週間間隔で液肥を施用するが、表土の一部でも青ゴケ等がみられたら施さない。寒波が来た時も同様である。

- (2) 10℃で5週間程度種子冷蔵を行うことで、発芽勢がよくなり、開花が促進される品種が多いので、早生品種をまく場合は冷蔵処理を前もって行う。
- (3) 好光性種子であるため覆土はせず、底面吸水かミスト灌水を行う。ペレット種子はペレット資材を種子から取り除き、発芽後は底面灌水をやめ、細かいジョウロ等で頭上灌水する。また、灌水の水は冷たいものをさけ、温度を上げるように、ため水したものを使う。
- (4) 育苗温度は昼温20~25℃、夜温15~18℃として、夜間はトンネル等で保温する。場合によってはトンネル上に毛布やコモで夜間保温する。

5 福井ユリの栽培管理

- (1) フラワーネットは茎の伸長にあわせて、草丈の半分の位置になるように引き上げる(リリブライトレッドは草丈が伸びる品種なので必ず2段ネットを張る)。
- (2) 生育初期の乾燥は草丈が伸びなくなるので、芽立ち後は積極的に灌水する。

一定の水分(適湿状態)を保持させる灌水方法が理想であり、灌水は乾燥と滞水を繰り返さないように工夫する。

- (3) 追肥は発芽後、生育を見ながらOK—F 1の1000倍を適宜施用する。
- (4) ハウス内温度は最低10℃、最高25℃とする。トレイの土が乾燥気味で30℃を越すと葉焼け症が発生し易くなる。4月下旬以降、夜間はサイドを開放し、換気に努める。
- (5) 葉枯病は、ハウス内の湿度が高くなると発生しやすくなるので、芽の伸長時期以降は積極的にハウスの換気を行うとともに、フルピカフロアブル3000倍等で定期的に防除する。アブラムシは、ハウスのサイド等に防虫ネットを設置して、虫の飛込みを防ぐとともに、初期防除に努める。

6 ストックの栽培管理

- (1) 気温が下がってくると施設を閉め切りにすることが多くなり、多湿となりやすい。その結果、軟弱徒長となり、灰色かび病や菌核病といった病害が発生しやすくなる。ハウスの夜温が下がる場合、保温に努め、厳寒期でも日中の晴れた日にはこまめな換気を行い、病害発生が起こりにくい環境づくりに努める。

晴天が続かず、発生が懸念される場合は、早朝換気を行い、低温低湿度の空気を施設内に導入し、昼間昇温時の湿度を下げる工夫を行う。

- (2) 灰色かび病や菌核病に対する治療剤は花き類やストックでは水和剤が多く、生育後期は葉斑による汚れが問題となるため、生育前半までにポリベリン水和剤1000倍等で防除に努める。生育後半は汚れが目立ちにくいフロアブル剤を使用する。アフェットフロアブル2000倍が利用できる。